

昨年秋から仙台で開催された「東北の美しい未来創造塾」の講座で、東松島での復興の地域づくりのお話をさせていただきました。もともと農家だった私たち夫婦は津波の被災を経て、「美味しいもので人を繋ぐ」という思いを強くし、よつばファームを起業しました。躊躇しつつも講座に行くと、同世代の仙台在住の女性受講者と農業について、思いのほか話が盛り上がりました。

回を重ねるごとに東松島と仙台居住者の精神的距離を縮められたらいいなあ…、と思うようになっていきました。中でも「布ナプキンが女性の生

東北復興日記

98



よつばファーム
熱海和美さん

当たり前前の日常みつめ直す

「き方をデザインする」を「ナプキンづくりまで行うコンセプトに活動する女子美術大学有志による「布ナププロジェクト」の

「たのび」のたのびです。

及川奈七見さんとの出会いが決定的でした。仙台と東松島の交流を深めることと、綿花栽培から布

「くにぎやかに第一回」人、地域とつながる丁寧な暮らし」を開催しました。写真。

ヨガから始まり、オーガニックコットンの草取り、トマトのハウスを見学後、大豆ミヤギシロメの種まきをしました。

お昼はわが家の新鮮、無農薬野菜たっぷりのお弁当、木陰でのんびり昼寝。午後は布ナプキンのワークショップで、さまざまな年代による体の話や、生理や体調の悩みを共有しました。「畑で見たいものを食べる」ができて感動した。「自分の

体をあらためて、大事にしたいと思った」など。食べることも自分の体

と向き合うことも、いくらでも簡略化することができる現代。だからこそ当たり前前の日常をもう一度別の視点から見つめ、感じることで、より丁寧に毎日を生きるきっかけになれば。

次回は八月二十四日の日曜日。(仙台駅から無料送迎バス)。お問い合わせ、お申し込みは、よつばファームのフェイスブックか、cqrn104@ybb.ne.jp。

この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結核プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。